

# 全学無期限ストを断固として実現せよ！

68/12/4  
No.28

東京教育大学

# 日暮生、一項目要求の大衆団交を打ち止め

教務大の全ての学友諸君々本館占拠パリテー  
ドストライキの無期限闘争にあり筑波移転阻止  
をめざし、果敢に斗り抜いている全学反諸君！  
二ハ日評議会回席に対する我々の基本的見解を  
再度明らかにしてあきせり。

二ハ日評議会回答、即ち大衆団交の提起に対  
し我々は基本的これを受け入れる。我々は大  
衆団交を次の四条件の下に行うことと要求する。

(1) 評議会との大衆団交であること。

(2) 評議会は、六・一〇を中心とした筑波移転内訌  
であること——具体的には次の七項目である  
こと。

①六・二〇調査ヒ計上決定撤回／②マスターア  
ラン委員会即時解散／③六・一〇土地確保決定  
撤回／④「本館封鎖訂策本部」解体／⑤筑波  
全面白紙撤回／筑波移転否宣言／⑥学生に  
市する一切の处分を行めなし／⑦以上趣意願  
、國交の場にありて文書を確認する。評議会教  
授会は責任をとること。

(3) 国交は、評議会と上記七項目を要求する學  
生の間に行われるものとする。

(4) 課長は学生であり、課長並びに代表団につ  
いては学生側が決定する。

△付記△

△以上、四条件を評議会に要求するものである。  
但し評議会側からとの四条件をめぐる何らかの  
折衝が起きされた場合には、我々は四条件をあ  
くまで譲歩すべくその折衝に臨むものである。  
との際評議会と折衝する主體は上記四条件を要  
求する学生の代表とする。

△四条件が評議会で確認された場合、更に技術  
的手段は別途、例えば、日時場所代表団の数につ  
いて折衝、確認する。

一 文部省自治委員会委員会

八全学無期限ストを実現せよ△△△

全学の学友諸君々下学当局が未だ昨年の六・一  
〇土地確保決定を前提として上位、様々の記載  
してあるにすぎない現在、我々の斗争の勝利の道  
は、更に無期限ストを強化すること、即ち全学

無期限ストライキの強固の確立にあるといふこ  
とをも、よりと確認しあかねばならぬに已れ  
う。本日、理農教三学部にありて学生大會が行  
われようとしている。四条件、七項目要求の下  
における大衆団交の実現、そして筑波移転阻止  
は、全学無期限ストの確立によ、このみその勝  
利への展望が切に開かれることを銘記せ  
ねばならぬ。現在様々の形において（理学部  
の授業再開アンケート等）大學当局がなしてい  
るところの“おどし”に対して、我々は更なる  
斗争の強化をも、こ應えるだけはなりか。

八四条件、七項目要求の下、大衆団交を実現せ  
よ△△△

大學当局は二ハ日の評議会において一定の「  
回音」をひしげりながらも、理教委員会の強く主張  
される形態での「全學集会」の招来（前評議會參  
加、一段商討）による、乙、昨日の評議会におけ  
ても最終的ひ寄古一致を図るに致うつか、た。  
一方「全學集会」実現の為、理建教執行部系は  
「統一代表団」によるものを選出せんとしている。  
これは、彼らのいう「協議会」設置への布石と  
して學内各系の代表を集めるといふし、るものだ  
が、この間の移駁阻止斗争の内実、その斗争路  
線からみるならば、我々はこのひうつ策動に明  
確に対決していかねばならぬに已れ。我々は、  
あくまでも四条件、七項目要求をも、乙、評議  
会文をかちと、こいかねばならぬ。一部諸  
君のこのひうつ「學園民主化」路線による移駁  
阻止斗争の歪曲を断乎として糾弾していかねば  
ならぬのだ。そしてこのひうつ一部諸君の腰  
力をのりこえて阻止斗争を前進せしめる部社は  
唯一全學斗争連貫会の口と云ふことを強調し  
て確認し、更に更に全學斗争の組織強化を進ぞし  
てこくなほりか。

★四条件、七項目要求の下、大衆団交実現  
★全学無期限スト体制を構築せよ△△△

★全学の学友は全學斗に結集せよ△△△